

	ベニシジミ Lycaena phlaeas 												
種名													
分類	ジャノメチョウ科												
形態	前翅長 10～19mm。季節型があり、春型は前翅表の地色が赤橙色、後翅亜外縁も同色。夏型は黒褐色部が広く、わずかに赤橙色斑がある。また、後翅亜外縁の赤橙色部が春型より小さい。♀は♂よりやや大型。翅型が丸みをおびる。後翅表の亜外縁に青色斑をもつ個体があり、とくに春型では目立つ。秋にも春型のような個体が見られる。												
分布	北海道、本州、四国、九州(九州・種子島を含む)。分布は広い。												
出現期	3月中旬ごろより春型が羽化を初め、11月まで年4～6回の発生。寒冷地では2～3回になる。暖地では冬期にも成虫を見ることがある。夏型は7月頃から出現。その間には両型の中間的な個体が羽化する。また、秋には春型に近いものが見られ、夏型と混じる。各齢の幼虫で越冬する。												
生態	田畑の周辺、草地など明るい環境に棲む。市街地でも見られる。山地にもいるが、あまり多くない。地面をはうように低く飛び、オオイヌノフグリ、タンポポ類などで吸蜜する。長い時間飛ぶことは少なく、すぐに葉表や地上にとまる。♂は占有行動を取り、♀をさかんに追う事が多い。♀は食草にとまると、葉表や茎を歩き回って、卵を産み付ける。												
食樹	タデ科のスイバ、ギシギシ、ノダイオウ、エゾノギシギシなど。高山帯にもこれらの近似種が自生するが、ベニシジミは分布していない。												
幼虫 (幼生期)	体長 15mm。緑色で、背線およびふちどりが紅色をおびるものがある。越冬中は濃い色になる。												
出現時期	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	11	-
その他													
参考文献：検索入門 渡辺康之著 チョウ													